

# これからのパートナーシップさいたまを考える —事業検討会議を開催—

## 事業検討会議とは?

本会議は、パートナーシップさいたまの事業について、今後さらに充実、発展を図るため広く市民の方々の意見、要望を伺うことを目的として定期的で開催しています。

メンバーは男女共同参画に関心を持っているセンター利用団体の代表者等の方で構成されています。

今回は18年度の各事業計画、特に学習・研修事業について詳細な説明があり、それらについて熱心な検討、協議が行われました。様々な視点から各メンバーから主に学習・研修事業に関するいろいろな意見・提案・要望が提起されました。これらの提起事項を考慮に入れて各事業が運営され、パートナーシップさいたまが今後さらに発展していくことが期待されます。

(岡本 精文)

※岡本さんには広報誌編集員の代表として、参加していただきました。



▲平成18年度 第1回事業検討会議

## 今回いただいたご意見・ご提案を紹介します

●「女性の悩み電話相談」などの相談事業に寄せられている悩みで多い離婚、DVといった問題は、講座の内容として取り上げられている。実情を反映した講座内容だと思ふ。それらについて件数の多い精神・医療の問題についての講座を行う予定は?

⇒講座の内容は、社会の動きや、日々の暮らしの中での事情や問題を取り上げ、市民の方々の関心にあったものとなるよう企画しています。相談に寄せられた内容も参考にすることで、より充実した講座としていきます。

●講座には、テーマに対して悩みや問題意識をもって参加している人が多いと思う。それを話したい、他の人の意見を聞きたいという思いを講座に反映させて欲しい。

⇒ただ講義を聴くだけにならないよう、講座運営をしていきたいと考えています。ただ、話し合いが苦手な方のことも配慮していきたいです。

●自主学习グループの代表をしているが、グループとして、図書整理などボランティアとしてセンターの運営に協力できると思う。

⇒ご協力いただき、より充実したセンターをめざしていきたいと考えています。そのため、ボランティアの募集など、みなさまのお力をより発揮していただけるような方法を検討していきたいと思ふます。

# 私たちの 学んだこと

## —記録誌づくりは第二の学び—

### 記録誌とは?

受講後の「もう一度考えてみたい。」「もっと深く学びたい。」「受講した人たちと何かを残したい。」という受講者の思いを1冊にまとめたものです。

パートナーシップさいたまでは、その思いを形にするお手伝いをしています。

### 記録誌ができるまで

受講修了者各自が、編集作業を分担して行っています。その過程では、ひとつひとつのことにみんなが納得するまで話し合いをして進めています。

### 記録誌の持つ意味

記録誌を作るため、これまでに受講した講義について、テープ起こしをして概要をまとめます。また、各回の自分たちの感想を読み返しています。その作業によって、講義の内容が再確認できることとなります。つまり、記録誌作りは第二の学習の場にもなっています。

作成に携わった方からは、「講座を受けるという受動的な立場から、ひとつのものを作り上げるという能動的な立場に変わった。新たな視点で講座の内容を見つめ直す機会になった。」との感想もありました。

## ご覧ください、学習の成果を

記録誌は、パートナーシップさいたまの情報・資料コーナーで閲覧・貸出しができます。

受講修了者の学習に対する真剣な思いが、きっと伝わってくると思います。

ご覧いただき「学びたい!」との気持ちが起こってきたら、パートナーシップさいたまの講座・講演会にご参加ください。



▲この春に実施した講座「暮らしの女性学」受講修了者(自主グループそれいゆ)による記録誌もできあがりしました。

### これまでにできた学習記録誌

- 平成16年度  
・「さいたま市女性カレッジ 学びの記録2004」  
めんどり会議ふあーすとすてっふ  
・「幼児をもつ母親のための講座～学習記録～」  
さいたまハイジの会
- 平成17年度  
・「さいたま市女性カレッジ～メディア・情報を読み解く～学びの記録・2005」  
グループStep.1  
・「幼児をもつ母親のための講座～学習記録」  
キラ☆キラマママン たんぼほの会

## Book Navi

情報・資料コーナーで貸し出している図書のご案内です。

### 「女となることは ライオンと暮らすことなのか」

The Women Link Visual Media Committee 製作・著作 1998年

韓国で製作されたビデオ。結婚している女性たちの体験を、4話のオムニバス形式で描いている。

韓国の夫婦にも家父長制と性別役割分業が日常生活にはりついているのがリアルに表現されている。日本の夫婦にも似ている。

夫が脱いだ靴下、子どもの汚れたオムツ。家族が下に落ちていったものを拾って歩くのは、妻、女性!?家の中で、下を向いて拾っていたあるときふと「なんで?」と顔を上げる。そして思わずオムツを夫に投げつける。はたしてあの夫婦は…!?

夫婦で見ると気まずい空気が流れるかもしれないが、ふっと何かを投げかけてくれる1本。

(井澤 美恵子)

### 「仕事というライフライン」

結城 美恵子 著2001年<クック舎>

仕事とは何?子育てをしながら仕事をしていくには?と疑問を持っている人にはぜひ読んで欲しい。

著者が2人の子どもを育てながら仕事をしていくことにより、仕事に対する意識が変わっていく様子がとても興味深かった。子どもをとっても大切にしていることには共感が持てた。

今までのようには働けない。そのための工夫、夫の協力。そして、仕事とは何か?どのように女性は働いていけばよいか詳しく書かれている。

私自身この本を読み終えて、子育てをしながら働くことへの漠然としていた不安から解放された気がした。そして自分にとって、仕事とは何か分かったような気がする。

(浅見 靖子)

## ただいま活動中 「めんどり会議 ふあーすとすてっふ」

パートナーシップさいたまと  
女・男プラザの講座から誕生した  
自主学习グループを紹介します。

2004年に「さいたま市女性カレッジ」を受講したメンバーで立ち上げたグループです。  
30代から70代まで専業主婦、パート、正社員等、年齢も仕事・生活も様々です。立場の異なる中での討論・活動はお互いに心地よい刺激になっています。

私たちは、月1回の勉強会を柱に、「女・男フェスタさいたま」「市民企画講座」等にチャレンジしてきました。

1年目は、何かと模索する年でした。2年目の今は、1年目の反省点から、主に運営面を見直し、各々の活動がスムーズにできるようにしました。

この秋、さいたま市から補助金を受けることができ、「めんどり会議」が企画した講座を、初めて催すことになりました。そこで新たな出会い、学びをメンバー一同大変楽しみとしています。

(井澤 美恵子)



▲昨年度の「女・男フェスタ」ワークショップを終えて

施設のご案内

	パートナーシップ さいたま	ひとひと 女・男プラザ
場所	大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センター プラザ3階	緑区中尾1440-8 プラザイースト3階 <small>※浦和駅西口よりバス、「緑区役所入口」下車 又は東浦和駅よりバス、「プラザイースト」下車</small>
開館 時間	平日 9:00~21:00 土・日・祝日 9:00~17:00	9:00~17:00
休館 日	第4日曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設の利用	男女共同参画の推進を目的とする活動に、ご利用ください。 (パートナーシップさいたまの会議室・プレイルームと 女・男プラザの団体活動室は、利用登録が必要です。)	
情報・資料コーナー	本や雑誌、行政資料、ビデオなどがあります。 閲覧、貸出しができます。	
お問い合わせ	048-642-8107	048-875-9966

相談のご案内

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-643-5813
月~金/10:00~20:00 土・日・祝/10:00~16:00	
女・男プラザ	☎ 048-875-9653
金/10:00~17:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎ 048-829-6129
月・火・水・金/10:00~17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎ 048-840-6132
月・水/10:00~17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎ 048-790-0158
月・水/10:00~17:00	

●法律相談(予約制) 女性の弁護士が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第2・第4水曜日/13:00~15:30	
女・男プラザ	☎ 048-875-9966
第1・第3火曜日/13:00~15:30	

●心の健康相談(予約制)

専門の女性医師が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第3日曜日/13:30~16:30	

◆相談は無料です。◆秘密は厳守します。

編集後記

5歳の息子と3歳の娘は、市内の保育園に通っている。共働きの我が家にとってこの保育園のお陰で何とかここまで来られたと感謝している。

総務省の統計(平成13年)によると、育児期にある夫の1日あたりの育児参加はわずか約0.4時間で、妻の5分の1。これだけ見ると男女共同参画には程遠い。しかし子どもたちの園では送迎時にお父さん方をよく見かける。おそらくこうした男性は少数派であろう。しかし変化は着実に起きているのだ。焦る必要はない。でもめざすべき方向を知ることが大切だ。その情報提供の場がパートナーシップさいたまなのである。

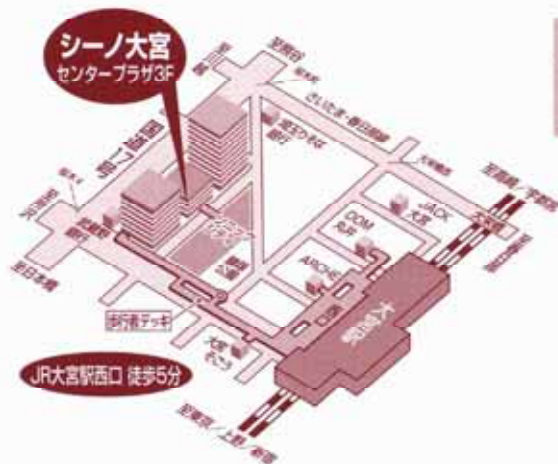
(柴原 早苗)

少子化と言われる昨今、私にはその実感がない。私のまわりでは、子どもが3人4人は当たり前、学校も幼稚園も子どもで溢れている。保育園や学童保育は待機児童が多いと聞く。また、幼稚園の入園申込みも並ぶそうである。

この私も3人の子持ち。子育てに追われている。それにしても、最近の学校はお金がかかり、大変だ。義務教育くらい完全無料にならないものか?幼稚園の義務教育化の話があったと思うが具体化されるのは、何年後のことやら。私の娘がその恩恵にあずかるのは難しいであろう。

ともあれ子育てしやすい時代になれと、願っている。

(飯田 由美子)



広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

(誌名「鐘の音」)  
大宮の古い地名「鐘塚」に建てられた「パートナーシップさいたま」から、男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.10 2006年11月25日発行  
<編集・発行>

さいたま市男女共同参画推進センター パートナーシップさいたま  
編集員/浅見晴子・井澤美恵子・岡本精文・柴原早苗・飯田由美子  
〒330-0854さいたま市大宮区桜木町1-10-18シーノ大宮センタープラザ3階  
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801  
E-mail:danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp  
7・11・3月発行(年3回)



この印刷物は古紙の配合100%の再生紙を使用しています